

みどりの大使 が行く!



......
2026
ミス日本みどりの大使
ながた まなみ
永田 愛実



皆さん、こんにちは。

2026ミス日本みどりの大使の永田愛実です。

富士山

みどりの大使に就任した際に目標に掲げた、「人生初の富士登山！」にゴミ拾いもしながら挑戦しました。海外から来ている方も多く、「Good luck!」「You can do it!」と、国籍や言語を越えて声を掛け合いながら登りました。最初は知らない人同士でも、励まし合ううちに仲間になっていく。その温かさが印象に残っています。自分の足で



「ゴミを拾いながら山に登ったからこそ、この美しい自然を守りたいという気持ちが強くなりました。目標が一つ達成でき、嬉しい経験となりました。」

みどりの募金 秋のPRラジオ

秋の「緑の募金」をPRするため、radiko podcast オリジナル番組「森と人をつなぐラジオ supported by 緑の募金」と、全国「コミュニティFM」で配信される「シビルトーン」に出演しました。大使になって以降の私の経験



全国森林組合職員連盟 全国研究集会

を振り返ると、森を守る人、木を育てる人、木を使う人、子どもたちに自然を伝える人など、さまざまな形で森と関わる方々との出会いがありました。一人ひとりの仕事は違っても、その先には「森を未来へつなぐ」という共通点があります。緑の募金も、森林づくりや緑化活動、子どもたちの自然体験など様々なことに活かされています。声と言葉だけで届けるラジオを通して、どうすれば森や緑を身近に感じてもらえるのか、「伝える」ことを改めて考える機会となりました。

podcastはradikoにて配信中!

同集会で特別講演をさせていただきました。この

ページの「森の声」コーナーを通じて、森を知らなかった私だからこそ感じた驚きや疑問、初めて知ったことがあります。講演では「知らないからこそ持てる視点もある」とお話ししました。これからも、現場で学び、感じたことを自分の言葉に変えながら、森の魅力を届けていきたいと思っています。

愛実のつなぐ・届ける・森の声 「子どもと共鳴して、唯一無二の時間を」

高知県で開催された「子どもの森づくりフォーラム in 高知」にて司会を務めました。そこで一緒に認定こども園若草幼稚園の園長、堂本真美子先生のお話で心に残ったのが、「子どもと共鳴して、唯一無二の時間を一緒に過ごしてみる」という言葉です。

森では、きのこや虫との出会い、雨の中での泥遊びなど、予定していなかった出来事が起こります。歩く、触る、見る、聞く、匂いを感じる、五感を使う中で生まれる「なんだろう?」が、好奇心や「もっと知りたい」という気持ちにつながっていくのだと学びました。

私自身、大使になる前は、木の名前を気にすることはほとんどありませんでしたが、今では「これ何という木だろう」と立ち止まることがあります。森を知ること、知識を増やすことだけではなく、まず「感じる」ことから始まるのかもしれない。だからこそ、子どもたちに森を伝える時も、「何かを教える」のではなく、「一緒に感じる」ことを大切にしたいです。

これからも自分の目で見て、耳で聞いて、触れて、感じながら森を知り、そこで生まれた小さな「なんだろう?」を、私なりの言葉でつないで届けていきます。

